

行政評価シート【重点戦略】

重点戦略４－（３）

暮らしを支えるネットワークを充実する

基本的な方向性

●公共交通の利便性を向上するとともに、生活拠点の形成に合わせた交通結節点※^１の創出に加え、移動の快適性を向上します。また、複雑化・複合化した暮らしの課題に対応する仕組みを構築します。さらに、地域課題の解決に向けた支援を行います。

※^１ 異なる交通手段の接続が行われる場所であり、人や物の乗り換え等が行われる鉄道駅やバス停などのこと。

KPI（重要業績評価指標）の達成状況

指標名	実績値					目標値
	計画 策定時	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2027 年度
自動運転バスの運行路線数【累計】	－	0 路線	0 路線			1 路線
地域における協議の場★ ^１ の数	8 箇所	8 箇所	7 箇所			14 箇所

★^１ 様々な地域団体が集まり、地域の課題解決や更なる活性化について、検討し、連携を図る場のこと。

戦略推進のための主な取組の「成果」

- ・自動運転バスの実証実験では、国産大型電気バスの使用、路上駐車回避区間の拡大、日没後の運行等の検証をしました。また、有償一般試乗を実施し、約 1,300 人が自動運転バスを体験しました。
- ・3 地区 4 団体による地域内移送に対して支援を行ったほか、福祉有償運送団体に対して新たな財政支援を実施するとともに、意見交換会を行い、課題の共有や事業の連携等について協議しました。
- ・重層的支援体制整備事業の移行準備事業を運用し、本格実施に向けて関係機関との意見交換を行ったほか、関係機関が参画した重層的支援会議を実施し、支援プランを作成しました。
- ・安心・安全の確保や文化継承など、地域課題解決に向けた地域が主体となった取組に対して財政的な支援をしたほか、ちいき情報局の活用を促進し、デジタルツールを活用した地域情報の発信・共有を支援しました。また、ひらつか地域づくり市民大学では、持続可能な地域活動の仕組みづくりについて学習しました。
- ・「地域に根ざした持続可能な開発のための教育」（ESD）の取組を意識した事業を実施しまし

た。また、松原公民館と金田公民館の大規模改修工事に着手しました。

- ・平塚市バリアフリー推進協議会を開催し、「平塚市バリアフリー基本構想」に基づく事業計画の進捗状況やバリアフリーに関する情報等を共有しました。また、障がい者団体や特別支援学校と連携して、障がい者理解を深めるためのパネル展等を開催するとともに、市内各公共施設に心のバリアフリーハンドブックを配架したほか、市のイベントや市内大型商業施設で啓発グッズを配布する等、思いやりの心が醸成されるよう働きかけました。

戦略を推進する上での「課題（・）」と課題解決を図るための「取組方針（⇒）」

- ・主に郊外部で交通空白地域や交通不便地域があり、加えて、バスの運転士不足が深刻化し、公共交通の維持の必要があります。また、高齢者や障がい者等の移動手段のニーズが増加しています。
- ⇒自動運転バスのレベル4運行（特定条件下における完全自動運転）に向けて、実証実験により実行性を高めるとともに、運行に対する市民の理解と機運を高めていきます。また、地域内移送及び福祉有償運送事業に対して支援を継続するとともに、関係機関と連携して検討を進めます。加えて、バリアフリー化に向けて、「平塚市バリアフリー基本構想」に基づく特定事業計画を推進するとともに、高齢者や障がい者等への理解を深め、心のバリアフリーの推進を図ります。
- ・複合化・複雑化した暮らしや地域の課題に対して、本市の状況に合った包括的支援体制の整備を進める必要があります。
- ⇒本市における包括的支援体制のあり方について、関係機関とともに検討を進めます。また、地域の様々な団体との連携を促すとともに、地域課題解決に向けた取組を支援するほか、地域情報の共有に向けた取組を支援します。

戦略推進のための「【取組】（事業）」

- 【持続可能な公共交通の確保】（路線バス運行維持支援事業、南北都市軸への新しい公共交通導入事業）
- 【地域特性に合わせた移動手段の確保】（住民主体地域内移送等推進事業）
- 【重層的支援体制の整備】（重層的支援体制整備事業）
- 【地域課題の解決を図る機会の創出】（地域自治推進事業）
- 【公民館活動による地域連携強化】（多様な学習推進事業）
- 【バリアフリーの推進】（バリアフリー促進事業、社会参加・交流促進事業）